

MIZUHO



March
2026

Vol.43

瀬木学園だより

学校法人 瀬木学園

愛知みずほ大学・大学院

愛知みずほ短期大学

愛知みずほ大学瑞穂高等学校

「とっておきMIZUHO (学園)」	1・2・3
「きらり MIZUHO (高校)」	4
「新生MIZUHO (大学)」	5
「きらり MIZUHO PART2 (高校)」	5
「瑞想録」	5



昨年11月に「防災」と「地域」をキーワードとする2つのイベントが開催されました。今号は、このイベントを中心にお伝えします。また、国内初開催となったデフリンピックに関わった高校教員の体験談もお届けします。学園の最新の情報と合わせてお楽しみください。



近隣商業施設での「防災フェスタ」(2025.11.1)

かまとベンチ活用による 防災炊き出し訓練

200食限定
15:00~

災害時には愛知みずほ大学・愛知みずほ短期大学と協力して、地域のみんなを支援します。その力を知ってもらうためにかまとベンチを使って作ったあたたかい味噌汁をみんなに配ります。安心を備える活動を、ぜひ体験してください。



かまとベンチってなに？

いつもは座って休憩できるベンチですが、災害の時には炊き出し用の「かまと」に变身します。もしもの時はいいねマルシェのかまとベンチがみんなの食事を助けてくれます。



「みずほオープンアカデミー」(2025.11.22)



とっておき
MIZUHO

「健」でつなぐ地域の「和」(学園)

今回の「とっておき」では、学園が掲げる「健」をハブ(hub)として学外との連携により昨秋実施された2つのイベント、「防災フェスタ」と「みずほオープンアカデミー」をご紹介します。それぞれ共同で企画されたものではないにも関わらず、ともに「防災」に関わる催しとなりました。

防災フェスタ

近隣施設の「いいねマルシェ」を会場に2025年11月1日(土)に開催。「いいねマルシェ」は、中電不動産株式会社のまちづくり事業として開発された「iiNE(いいね)タウン瑞穂」の商業施設で、防災拠点としての役割も担っています。中電不動産と本学園は2025年8月に災害時における相互協力に関する協定を結んでいることから、同フェスタに大学・短大・高校の学生、生徒および教員が参加。「かまどベンチ活用による防災炊き出し訓練」に協力しました。普段は休憩用に利用している施設内のベンチをかまどとして使用し、あたたかい味噌汁を作り、施設利用客のみなさんに提供しました。



ベンチが「かまど」に変身



具だくさん味噌汁



みずほオープンアカデミー-2025

昨年に続き2回目となる「みずほオープンアカデミー」が、2025年11月22日(土)に大学・短大1号館を会場に開かれました。昨年と同様に「生きてるを学んで、おもしろい」を掲げ、健康をテーマに基調講演のほか講座と体験の3部構成の内容。健康食品を扱う代表的企業2社と地元行政とのコラボレーションにより実施されました。

【基調講演】

基調講演は金沢学院大学特任教授で管理栄養士の木戸康博氏が「私たちにできること 南海トラフ地震に備えてー東日本大震災・能登半島地震から栄養の視点で学ぶー」と題して防災と栄養をテーマに話されました。栄養士の立場で東日本大震災と能登半島地震のほか、実際に災害支援に携わった経験による示唆深い講演となりました。



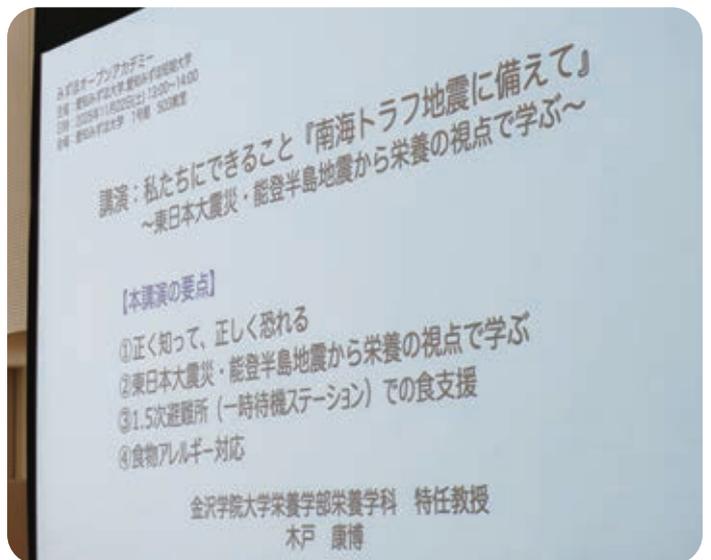
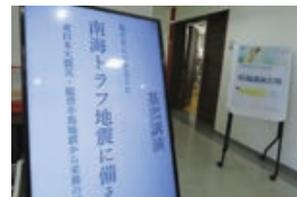
熱心にメモを取る
参加者

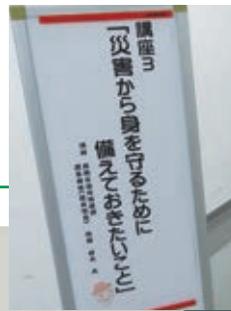
スライドを操作しながら講演する

木戸康博氏



講演では、寺田寅彦(明治から昭和初期に活躍した物理学者で随筆家)の有名な言葉「天災は忘れた頃にやってくる」を用いて、「正しく知って、正しく恐れる」、「正しく恐れる」とは、適度な施策を講ずることと、災害に対する心構えの大切さを繰り返し述べられました。





【 講 座 】

「今日から生かせる健康の話」として以下の4つの講座が開かれました。

『酢酸の健康機能:最新の知見と今後の展望』

(株式会社Mizkan Holdings 中央研究所健康機能チームリーダー 吉本靖東氏)

『冬に備える免疫アップ術』

乳酸菌の有用性と上気道感染症予防』

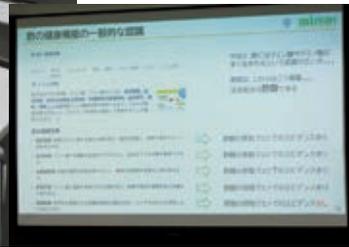
(株式会社ヤクルト東海企画部部长 高城 栄 氏)

『災害から身を守るために備えておきたいこと』

(瑞穂区役所総務課課長補佐 岡部将大氏)

『ヨガでリラックス』

(本学非常勤講師 全米ヨガアライアンス認定 山崎淳子氏)



【 体 験 】

「日常生活に取り入れやすい健康体験」として様々な診断(チェック)が行われました。実施された「体験」は『足』:「足診断」、『姿勢』:「姿勢チェック」、『骨密度』:「骨密度チェック」、『血液』:「ヘモグロビンチェック」、『美肌』:「肌年齢チェック」の5つでした。どれもが関心の高い内容とみえて各コーナーには順番を待つ列ができるほどの盛況ぶりでした。



順番待ちの列





今回は、聴覚に障害を持つアスリートたちの4年に1度の国際大会「デフリンピック」の国内初開催となった「第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025」(2025.11.15～11.26)で、女子バスケットボール競技の審判員を務めた高校教諭(英語科)中野真由美さんへのインタビューを抜粋でお届けします。



試合前に審判員3名で



大会ユニフォームとIDカードを手にする中野さん

きっかけ

過去に愛知県で開催された「ミミリーグ」(全国デフバスケットボール大会)で審判を務めたことがあり、デフリンピックが国内で開催されるのを機にチャレンジしたということでした。もともと、バスケットボールを通じて障害の有無にかかわらず、いろんな人とつながりたいと思っていて、デフの大会以外にも知的障害者や車いすの競技に携わったこともあるそうです。

葛藤

国際審判員とのコミュニケーションでは日本の手話を国際手話に変換する必要があり、どうしても「時差」が生じてしまうため、初めは思うようにジャッジできなかったそうです。そのことで悩んでいると、イタリアの審判員に「誰もピアノを演奏するとき、初めから上手にできない。すべては経験」と励まされたということです。うまくいかないときには手話だけでなく、ジェスチャーを用いたりして最終的には国際審判員ともダイレクトに意思疎通ができるようになったそうです。



デフの主審とジェスチャーで会話

「これがわたし」

オーストラリア対リトアニア、アメリカ対チャイニーズタイペイ(台湾)の2試合で審判を務めました。選手とうまく意思疎通できるか不安だったけれど、相手のほうから積極的にジェスチャーで関わってきてくれたそうです。デフであることに劣等感を抱いている人は誰一人いなくて、「これがわたし!」という感じで胸を張ってプレーする姿に圧倒されたそうです。



オーストラリア対リトアニア戦での中野さん(手前)

大切なこと

手話でのコミュニケーションでは、目や顔の表情を汲み取る必要があって難しいけれど、現代に必要な「向き合う」ことや協力することの大切さが学べ、今回の体験を通して、国や障害を越えて大切なのは、何よりも人と関わろうという志だということ強く感じたとのことでした。

各国審判員と



Newspaper

新生MIZUHO

多様性にフォーカス **New**「総合型選抜」(大学)

愛知みずほ大学で受験生の多様性に注目した新たな入試が導入されます。令和9年度入試から総合型選抜が生まれ変わります。令和8年度入試までの総合型選抜は、エントリー方式と自己PR型の2種類でしたが、次年度入試からは従来のエントリー方式と、新たに導入する3つの方式との4種類に変わります。今回は新しく導入する総合型選抜の特色をご紹介します。

01 

推し活ライフマネジメント入試

「推し活(好きなことに熱中して取り組む活動)」を通して身に付けた、続ける力、自ら行動する力、自分をうまく管理する力を大学での学びに活かしたい人のための入試です。推し活経験(情報を集める力、仲間と情報共有するコミュニケーション力、スケジュール管理や企画力、実行力など)を通して成長した自分を、数字や具体的なエピソードを交えて書いた自己成長レポート(「推し活レポート」)が出願書類になります。試験は面接のみです。

02 

健康チャレンジ入試

オープンキャンパスに参加し、本学の学びを実際に体験したうえで出願できる入試です。大学の授業や実技を体験することで、「自分に合っている大学かどうか」を確認してから出願できるため、入学後のギャップを少なくすることができます。学びにチャレンジする意欲や前向きな姿勢を評価して選抜を行います。試験は面接のみです。オープンキャンパスで3回以上の実技体験に参加し、それぞれの体験後に、学んだことや感じたことをまとめた「振り返りシート」を提出します。体験後に受け取る参加証明書が出願書類になります。

03 

Be yourself 入試

—ありのままの自分—
(旧「自己PR型」)

これまでの「自己PR型入試」を変更した入試です。無理に自分をアピールするのではなく、「ありのままの自分」で面接に臨んでもらうことを大切にしています。「そのままの自分で大丈夫」というメッセージが、この入試の名前に込められています。この入試は、前期(12月)と後期(3月)の年2回実施します。

今回は、生まれ変わる総合型選抜の概略だけのご紹介となりました。詳細については、6月頃に発行する『入試ガイド2027』や本学ホームページの「受験生サイト」でご確認ください。



きらり☆ MIZUHO PART 2

スケート部

インターハイで男子学校対抗2位、男子個人8位入賞(高校スケート部)

1月22日(木)から26日(月)まで宇都宮市スケートセンター(栃木県宇都宮市)で開催された令和7年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)フィギュアスケート競技で、男子学校対抗で2位、男子個人で3年生の三島舞明くん(名古屋市立富士中学出身)が8位に入賞しました。



男子学校対抗2位入賞のみなさん



男子個人8位入賞の三島くん



大会に出場したみなさん

瑞 想 録

この面で扱った「推し活入試」。かつては、あくまで個人レベルで語られた「推し活」ですが、いまや人と人のつながりや経済面など社会全般における好影響が目されています。その活動を通して培われた能力が学究の分野にどのような効果をもたらすのか興味津々です。これからも学園の新しい試みをどんどんお伝えしていきます。

転寝